

令和五年

《宵宮》10.7 [土]
夕刻—21:00
Saturday, Oct. 7th *Eve of the Festival*

《本祭》10.8 [日]
9:30—18:00
Sunday, Oct. 8th *Main Festival*

国指定重要無形民俗文化財

大津祭

天孫神社例祭

十三基の曳山と
からくりの彩り

「からくり」は月宮殿山



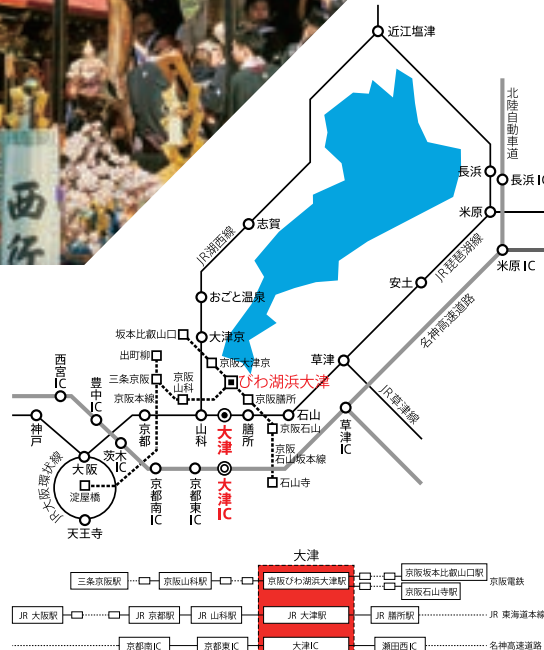
協力 | 陸上自衛隊大津駐屯地他

《曳山巡行有料観覧席》販売中
大津祭曳山巡行総合お問い合わせ先 077-525-0505

《曳山展示館》滋賀県大津市中央一丁目2-27(丸屋町アーケード内)
《開館時間》9:00—18:00 (最終入館17:30) 入場無料
《休館日》月曜日(祝日の場合翌日)、年末年始

特定非営利活動法人大津祭曳山連盟
Federation of Otsu Festival Floats, non-profit organization

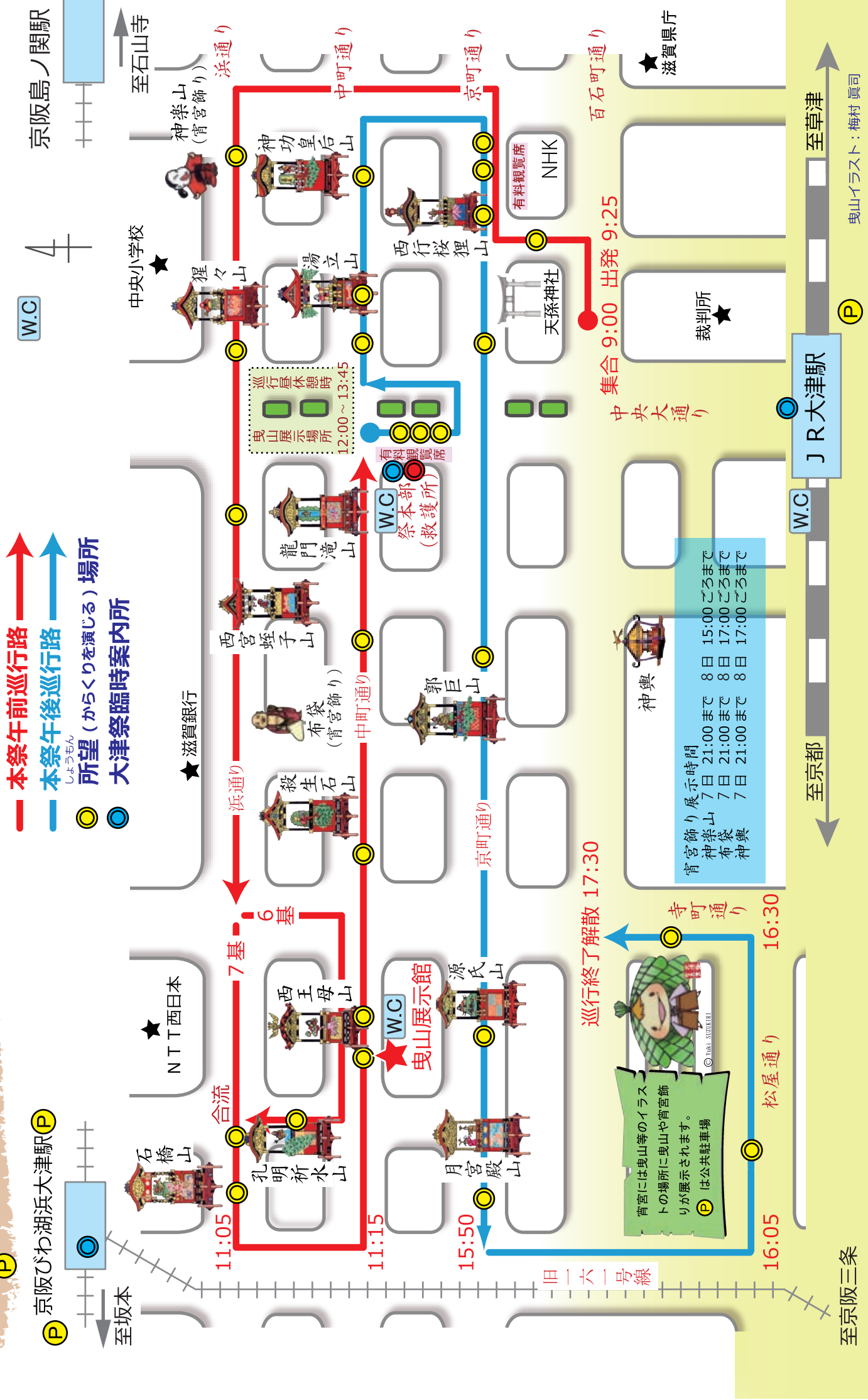
<http://www.otsu-matsuri.jp/>



大津祭見て歩きマップ

琵琶湖

— 本祭午前巡行路 —
— 本祭午後巡行路 —
● 所望 (からくりを演じる) 場所
● 大津祭臨時案内所



宵宮
本祭

宵宮では曳山から「コンチキチン」の祭囃子が夜空に響き、無数の提灯に浮かび上がった曳山は優雅で美しく、本祭で飾られるカラクリが間近で観ることが出来るのもこの時です。本祭とはひと味違った大津祭が楽しめますよ。

13基の曳山はゴブラン織りなどの豪華絢爛な懸装品に飾られ、一日かけて旧市街を巡行します。これは江戸時代の大津の経済力を象徴するもので、同時にこの祭りを支えてきた大津町衆の心意気を示しています。大津祭の特色として曳山それぞれに備えられた「カラクリ」があります。この「カラクリ」は能や中国の故事などから題材を取り入れたもので、巡行中に「所望（しょうもん）」の場所でカラクリの演出が披露されます。

大津祭 曳山巡行闇順

不鬨取 西行桜狸山 鍛冶屋町

1 西王母山 丸屋町

2 源氏山 中京町

3 湯立山 玉屋町

4 西宮蛭子山 白玉町

5 孔明祈水山 中堀町

6 郭巨山 後在家町・下小唐崎町

7 石橋山 湊町

8 月宮殿山 上京町

9 龍門滝山 太間町

10 神功皇后山 狛師町

11 殺生石山 柳町

12 猩々山 南保町

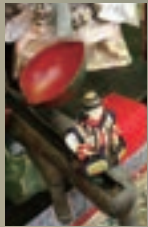
さいぎょうざくらたぬきやま
西行桜狸山
闇取らず 鍛冶屋町



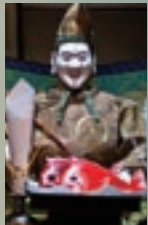
しょうじょうやま
猩々山
南保町



せいおうばざん
西王母山
丸屋町



にしのみやえびすやま
西宮蛭子山
白玉町



せつしょうせきざん
殺生石山
柳町



ゆたてやま
湯立山
玉屋町



かつきよやま
郭巨山
後在家町 下小唐崎町



こうめいきすいざん
孔明祈水山
中堀町



寛永十二年（一六三五）

塩売治兵衛が狸面を被って踊った事が発祥となった大津祭最初の曳山。明暦二年に西行法師が桜の精と問答を交わすカラクリを採り入れ、西行桜狸山となった。曳山の祖となった狸は屋上に載せられ、祭の先導をする守護となった。このためこの山はくじを取らずに毎年巡行の先頭を行く。所望は、古木から桜の精が現われ、西行法師と問答をする。



しやつきょうざん
石橋山
湊町

寛永十四年（一六三七）

能楽の「猩々」から取材したもの。むかし唐の国の楊子の里に住む高風という親孝行の者がいた。ある夜夢に「楊子の町に出て酒を売れ」と教えられ、売っていると、海中に住む猩々から、酌めども尽きず、飲めども味の変わらない酒の壺を与えられたという。所望は高風が酌をし、猩々が大盃を酒を飲み干すと、たちまち顔が赤く変わる。



りゅうもんたきやま
龍門滝山
太間町

明暦二年（一六五六）

謡曲の「東方朔」から取材したもの。むかし崑崙山に住む西王母が天女とともに舞い降り、帝に桃の実を捧げ、長寿を賀した。この桃は三千年に一度花が咲き、一個しか実らない貴い桃であった。ここから俗に「桃山」と呼ばれる。所望は、桃が二つに割れ、その中から童子が現れて所作をする。これは桃太郎説話が加味されたものとも云われる。



げんじやま
源氏山
中京町

万治元年（一六五八）

町内の伝承では、古くから西宮の蛭子を祀っていたが、後に曳山に載せるようになり、鯛を釣あげた蛭子に商売繁昌の祈りを込めるようになったとある。所望はえびすさんが鯛を釣り上げる所作で人気がある。この所作から俗に「鯛釣山」と呼ばれている。創建当初は宇治橋姫山と称していたが、延宝三年以後、いまの西宮蛭子山となった。



じんぐうこうやま
神功皇后山
狛師町

寛文二年（一六六二）以前

能楽の「殺生石」から取材したもの。鳥羽院に寵愛された玉藻前は、実は金毛九尾の狐で帝の生命を奪おうとしていたのを安部泰親に見破られ、東国に逃れ、那須の殺生石となって旅人を悩ましていたが、玄翁和尚の法力によって成仏したという。所望は玄翁和尚の法力によって石が二つに割れ、女官姿の玉藻前が現れ、その顔が狐に変わる。



げつきゅうでんざん
月宮殿山
上京町

安永五年（一七七六）

謡曲の「喜多流月宮殿」から取材したもの。唐の皇帝が長生殿で新年を祝う節会を催され、世を寿がれたというもの。所望は、鶴と亀の冠をつけた男女の舞人が、皇帝の前で舞を舞う。そこから俗に鶴亀山とも呼ばれる。ベルギー製で重要な文化財の見送り幕を所有するが、現在は平成十一年十月に復元新調されたものを使用している。

謡曲の「三輪明神を祀っていたことから、創建当初三輪山と称していたが、享保九年に改造され神楽山となった。安政六年を最後に巡行しなくなり、現在は三輪明神・市殿・彌宜・飛屋の四体の人形と、中国清代初期の官服を仕立てた見送幕、前懸幕の「瓶割図刺繍」、胴懸幕の「耕織図刺繍」が宵宮と本祭の両日、堅田町内に飾られる。



かぐらやま
神楽山
宵宮飾り 堅田町

年未詳（寛文年中湯立山）

天孫神社の湯立ての神事はこの山から捧げるとい、曳山は天孫神社を型どり、周りはその廻廊を真似たものである。所望は称宜がおのである。子供は又得られぬが母は再び得ることはできない」と、郭巨は妻と相談し、子供を土中に埋めよう」と穴を掘ったところ、そこから黄金の釜が出てきたという故事による。所望は、郭巨が鍬で土を掘ると黄金の釜が出てくる。



ほてい
布袋ねりもの
宵宮飾り 新町

元禄六年（一六九三）以前

ねりものとは今という仮装行列で、江戸時代の大津祭には、多くの氏子町からねりものが出されていた。新町の布袋は、元禄六年の記録に登場することから、それ以前の創建であることがわかる。現在、宵宮と本祭に町内で飾られる布袋の人形は、文化七年に新調されたもの。全高二メートルを超え、かつては人が中に入って練り歩いた。



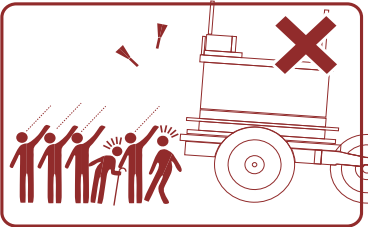
みこし
神輿
下百石町

元禄七年（一六九四）

蜀の諸葛孔明が魏の曹操と戦ったとき、流れる水を見て「敵の大軍を押し流して下さい」と水神に祈り大勝をした故事によるが、古い資料には、水に渴した孔明が趙雲に命じ、土を掘らせたら泉が湧いた、ともある。所望は、孔明の前に立つ趙雲が鉞で岩を突くと、こんこんと水が湧き出し、それを見た孔明が羽扇をうち振り喜ぶ様をあらわす。

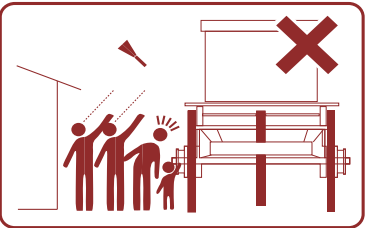
大津祭を安全に楽しんでいただく為。

各曳山より粽が撒かれます。粽を求めて殺到されると、危険です。お子様やお年を召した方は、十分注意してお祭りをお楽しみください。



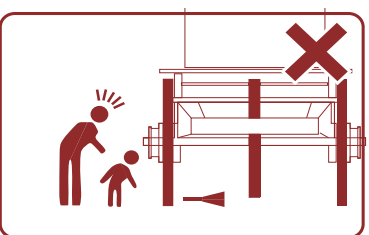
■人が集まっている所は避けましょう！

粽（ちまき）を求めて殺到されると、危険です。みんな曳山の上しか見ていません。足下にお年寄りやお子様がいることを忘れないでください。曳山に車輪があることを忘れないで下さい。



■狭い通りは大変危険です。

狭い通りで粽（ちまき）を求めて殺到すると、建物と曳山の間が狭く、押されて曳山の車輪にぶつかります。事故が起こると、一人の不注意で曳山巡行全体が中止になるかもしれません。曳山から十分離れてください。



■飛び出しは危険！

曳山にはブレーキがありません。急に飛び出されても止められません。大きな事故につながりますので車輪の前には絶対に入らないでください。

粽と手拭い



粽（ちまき）・てぬぐいは十三基の曳山各々のデザインがあります。

粽は天孫神社でお祓いを受けた厄除け粽なのです。古くなった粽は、近くの

神社の古札納所にお納めください。天孫神社の場合は、祭礼から10月末までと、正月から1月15日までの間、本殿前に設ける粽納所にお納め下さい。なお、納める際は、袋や巻紙を外し粽のみとして下さい。

大津祭曳山連盟 正会員ご入会のお願い

連盟発足後 10 年以上が経過し、会員のご支援及び色々の方々のご協力のお陰を持ち、知識、情報の蓄積、運営方法、人的資源の厚み等の体制が充実してきました。さらに曳山町以外の方々にも個人正会員になっていただくよう、これまで以上に積極的に本連盟の活動をご理解いただき、入会をお願いしたい思っております。

■お申込み先

特定非営利活動法人大津祭曳山連盟

〒520-0043 大津市中央 1 丁目 2－2 7 大津祭曳山展示館内
大津祭 H P 内 正会員募集のお申し込みメールフォームも可